

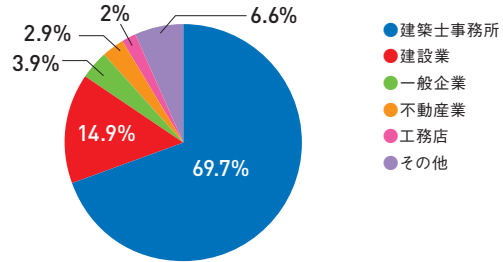
新型コロナウイルスの感染拡大によって、建築士たちにどのような影響があったのか

緊急アンケート調査概要

緊急事態宣言解除後の6月22日～7月6日にかけて、東京建築士会の会員を対象に、新型コロナウイルス感染拡大によって建築士の業務や考えにどのような影響を与えたかを尋ねるアンケート調査を実施。会員数5,793名のうち、684名の回答を集計しました。それによって、建築士の仕事への影響度合いや将来への不安、それぞれに様々な思いがあることが分かりました。

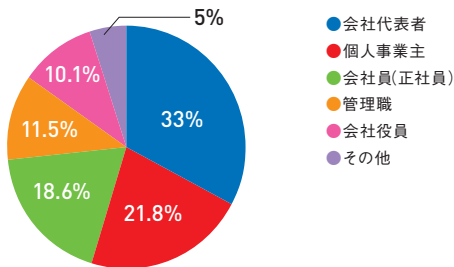
■主な業種を一つお選びください。

684件の回答



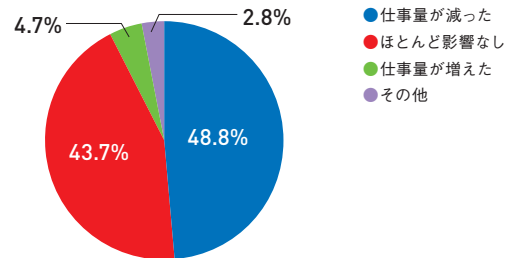
■上記の属性を一つお選びください。

684件の回答



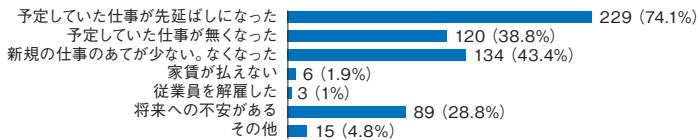
■1-1 コロナ前と比べて、ご自身のお仕事量には影響がありましたか？

684件の回答



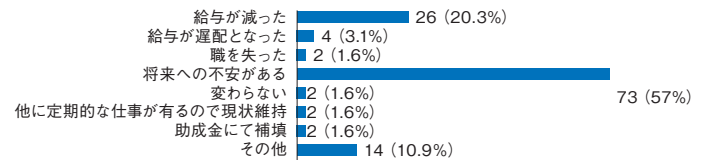
■1-2 上記1-1で「減った」とお答えの方で事業者、雇用主側の方へ質問です。どのような影響がありましたか。(複数回答可)

309件の回答



■1-3 上記1-1で「減った」とお答えの方で職員、従業員側の方へ質問です。どのような影響がありましたか。(複数回答可)

128件の回答



こんな回答もありました

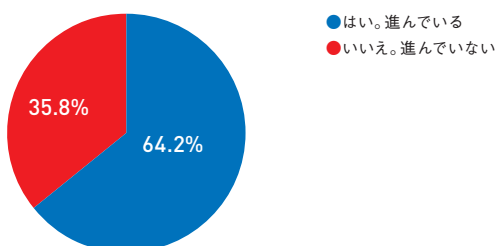
- クライアントが亡くなった
- 仕事量の減少はないが、工事着工の延期はある
- 営業ができなくなった
- 民間病院の助成金を活用した減床や介護医療院への改修が保留となった
- 延びたことで、来年の仕事になったと思えばそれも良いと考えている
- 自治体から受託している介護保険住宅改修訪問調査事業等の訪問ができない
- 設計期間が延びた。将来的に、業務が先延ばしになりそう
- PJ事業化の見直しなど
- テレワークのシステム導入などの想定外の経費が増えた
- スタッフ自宅待機で、その分雇用者である自分は雑務が増えた

こんな回答もありました

- 今年度予定の工事の延期等
- テレワークをはじめ働き方に多様性ができた
- 休業中
- 雇用契約が終了し現在無職
- 昨年の12月に設計の依頼を受け、仕事を進めていたが本年3月にコロナにより、新築が取りやめとなり、設計も中止となる
- 仕事が先延ばしになった
- 働き方の急激な変化と顧客発注状況の不確かさ
- 収入時期が延期になった
- ポストコロナの建設業の在り方

■2-1 お仕事のテレワーク化について

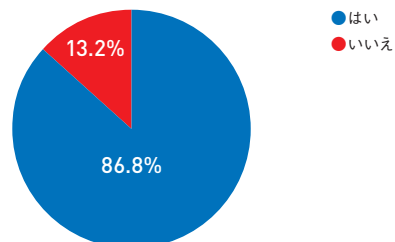
684件の回答



建築士の業務において、64.2%の方は既にテレワーク化が進んでいるという回答だった。テレワークが進まない理由として最も多かったのは、「現場が対応できない」が51.3%。つづいて「施主が対応できない」が32.1%。「検査が対応できない」が28.5%だった。

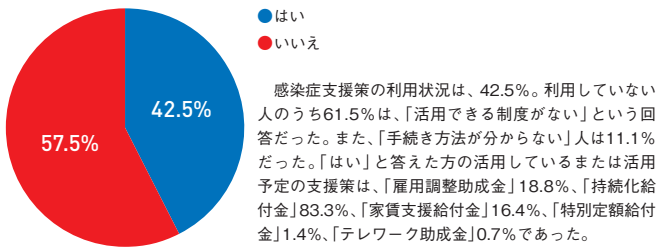
■3-1 新型コロナウイルス感染症への不安がありますか。

684件の回答

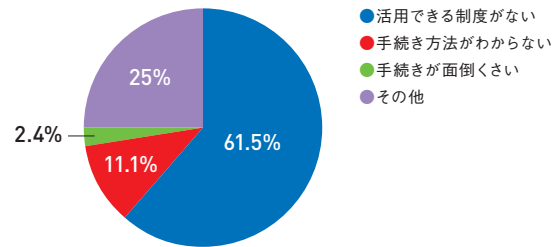


新型コロナウイルス感染症への不安があるとの回答は86.8%で、精神面での影響が多かった。そのうち不安を感じていることは、「移動交通機関」が78.6%で最も多く、続いて「周囲の人との思考の相違」が30.1%。「職場(現場)が密」が26.4%だった。

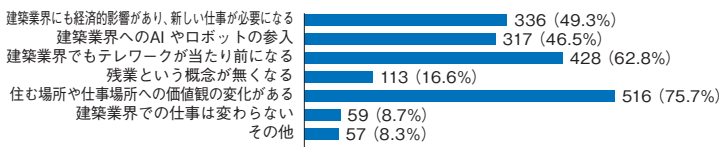
■4-1 新型コロナウイルス感染症支援策を活用していますか？
684件の回答



■4-3 左記4-1で「いいえ」とお答えの方へ。
活用しない理由について教えてください。 371件の回答

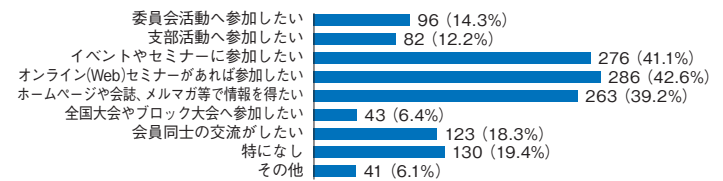


■5-1 withコロナも含めて未来(例えば10年後)の日本はどのようになっていると思いますか?(又はなっていてほしいですか?)(複数回答可) 682件の回答



「住む場所や仕事場所への価値観の変化がある」という回答が最も多く75.7%。次に多いのが「建築業界でもテレワークが当たり前になる」という回答で62.8%だった。

■6 今後、東京建築士会へは、どのように関わりたいですか?(複数回答可) 671件の回答



最も多かった回答は、「オンライン(WEB)セミナーがあれば参加したい」が、42.6%。つづいて「イベントやセミナーに参加したい」「情報を得たい」も約4割。「会員同士の交流がしたい」は、18.3%だった。

こんな回答もありました

- 都市と地方がフラットになってほしい
- もっと、資格主義の考え方が増えると思う
- 通勤の概念が変わり、時間の活用方法が社会的なテーマとなる
- 建築の需要減に対して、どうしたらよいのか
- 集住の価値が薄らぎ、大都市では減築が行われる
- 一般消費者の価値観が変わりつつあるため、私たち建築士はもっと先をみてスキルアップする必要がある

こんな回答もありました

- 建築士への情報発信や共同制作など物件に絡む施工提案
- 発注者支援建築士制度をより具体化させ、コロナ禍で得た知見を活かした建築士の社会的な貢献への具体的なプログラムを策定して行きたい
- 建築士試験監理員への協力
- 三会での連携強化
- 特になし、若い人の支援に回りたい
- 建築士会の考え方、他の会社様の動向が分かるような情報をもらいたい

■5-2 上記5-1 の未来の実現のためにご自身は建築士としてどのような役割を果たしていきたいですか? 460件の回答

- 人と人との距離感のデザインの提案
- 新しい技術を取り込み、顧客が安心してやり取りできる環境を作る
- 仕事柄に住まいの維持修繕の啓もう活動をコンサルとして経験を生かしていく
- 建築業界全体の活性化
- 自身の専門性を活かし換気に関する正しい知識を広め、コロナに負けることのない安心できる社会の実現を目指す
- 住民や行政と連携したまちづくりのための仕組みを構築したい
- 住み方、働き方等々、空間や所作に関する相談を受け付ける
- 社会情勢に合わせた作業方法の選択
- 社会貢献
- 出来るだけ仕事を続けられるように、健康に注意する
- テレワークした場合の場所確保
- コロナ前と変わらず取り組む建築設計への姿勢は特段変わることはないが、変化していく社会の建築への要望に応えていきたい

■7 東京建築士会への意見・要望

- WEBセミナーを開催するためのハード的な整備もおこなってほしいです。
- 困難な中、ご尽力なさっている事務局のみなさんに敬意を表します
- 新しい技術紹介のセミナーを、多く開催してほしい。
- 建築士会から国への働きかけ(要望提示や協議)を積極的にしてほしい。
- 高齢化問題と後継者問題。
- 委員会のオンライン対応を進めてほしい。
- 今後も、情報等の発信を希望する。
- 感染拡大防止対策を実施し、早期にイベント・セミナー等を開催してほしい。
- 新しい情報や法規等の改正時のスキルアップセミナーをやしてほしい。
- 建築士の地位向上、収入のUPに活動をして欲しいです。
- 設計監理契約書約款等のweb説明会の開催
- 人と人、職と人をつなげるフォーラムを設けて頂けると助かります。
- 建築物を文化としての側面からとらえた活動を推進していただきたい。
- 建築士以外の交流の場を設けて欲しい。例えば医師会や弁護士会などの意見交換など。
- 建築士の地位向上。他団体等の協調により、世間に対し発言力のある団体になって欲しい。
- 新しい生活様式を導入するにあたり、設計者として配慮できること、するべきことがないか、会員から意見を吸い上げて会員内で共有してほしいです。
- 建築業界の新しい働き方のマニュアルを作成してほしい。
- 持続化給付金申請時に思いましたが、個人の設計事務所はどのような支援が受けられて、具体的な申請方法等アナウンスして頂ければと思いました。
- 建築士会の社会への影響力を強化。
- 委員会(部会)活動は新しいスタイルを組み合わせながら再開の方がよい。
- 今後も積極的に社会に貢献して欲しいです。
- 建築士の存在意義を広める活動や、事業者との接点をつくる活動などをもっとしてほしい。
- 設計コンペを開催してほしい

今回の緊急アンケートでは、コロナ禍において建築士の業務にどのような影響があり、今後私たちの業界がどのように変わっていくかを会員の皆さんと一緒に考える良いきっかけになったと考えています。684名の方から回答をいただいたことから皆さんの関心の高さがうかがえます。「新型コロナウイルス感染症への不安がある」86.8%の回答者の中には、今後の仕事への不安も多く含まれていました。東京建築士会としては、今回皆様から頂いたご意見一つ一つと

真剣に向き合い、東京建築士会の委員会活動や支部活動、開催されるイベントやWEBセミナー、会員交流会などの会員サービスの向上に努めて参りたいと考えております。アフターコロナにおいても私たちに何が出来るのかを考え、今後さらに多くの建築士の皆様への活動にご参加いただき、ひいては建築業界全体の活性化につながればと願っております。(本会理事;佐藤一成)